

モデル事業名	人がいつまでも創造性を持って「まち遊び」できる地域作り
活動団体名	特定非営利活動法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク
ホームページ	<a href="http://www.gokasegawa.com">http://www.gokasegawa.com</a>
所属/ 担当者名	担当者氏名 土井 裕子
連絡先	電話番号：0982-42-3005 Eメールアドレス addoi@bronze.ocn.ne.jp
活動地域	延岡市東海東地区（粟野名町、大武町、牧町、柚木田町、無鹿町1区、2区、二つ島町（寺島、恋島））

### ● 活動地域の概要

この地域は、かつて延岡の舟運基地として栄えたエリアで、千石船を持っていた家や造り酒屋、遊郭などもあった。このエリアの人口、世帯数、高齢化率は、平成20年4月1日現在で人口4,958人、2,091世帯で集落毎には、

- ・ 粟野名町 830名 348世帯 22.3%・大武町 1,100名 479世帯 19.8%・牧町 509名 187世帯 16.9%
- ・ 柚木田町 944名 370世帯 18.1%・無鹿1区 602名 327世帯 31.9%・無鹿2区 666名 262世帯 28.5%
- ・ 二つ島町 307名 118世帯 27.4%である。土地利用の特性として周辺部に昔の街型を残す迷路のような集落があり、中心部に区画整理された、田圃が広がっている。洪水常習地帯なので、宅地や畑は嵩上げされ、美しい石積みがたくさん残っている。集落は区画整理されていないので、巨木や舟運基地の名残として、水神さんや庚申塔がたくさん残っている。

[位置図]



広い田圃の周辺に嵩上げされた宅地

### ● 活動地域の課題

100年前には延岡市の玄関として賑わった地域なのに、だんだんと寂れて、地域の誇りが伝えられていない。かつては共同で行われ、コミュニティーの絆を確かめる場であった「田植え」、「稲刈り」、「井で干し」、「祭り」などの共同作業も、2種兼業農家が主流となり、機械で独自に行われたり「井で」はコンクリート三面張りになってしまった。また、ベッタタウンとなるには、農振地域の指定もあり、宅地化が面倒なエリアも多く、かろうじて米だけを仕事の合間に作っている農家がほとんどである。子供が少なくなった事で、子供会が成り立たなくなったり、お祭りの参加者も少なくなって、地域のコミュニティーも魅力を無くしてきている。集落の形態は、昔ながらの「人が集まって暮らす場所」はよそ者にわかりにくいよう、わざと迷路のような道型に作るという形を継承しているが、そのおもしろさが地域に理解されていない。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

新たなコミュニティーの再生のため、遊びと仕事の中間のようなまち作りの仕組みを作ろうと「東海さるく」というこの地域を自転車で行って楽しむスタンプラリーを中心としたイベントを開催。地元のメンバーを中心とした実行委員会を組織し、地域の魅力を再認識する機会を作ると同時に、地域の手業や菜園の産品・手作り品を販売する「街角工房」、「街角ショップ」、「街角カフェ」などを開催した。また地域に新たな魅力をつけるために5年前から継続している「アーティスト・イン・レジデンス」の参加作家を増やし、公民館などを使って「街角ギャラリー」も開催した。これらの準備の中で、地域を飾るためのバナーや、鉄板の錆で染めたフラッグ、縄で編んだハンギングプランター、饒雲と呼んでいる雲の形の看板などをみんなで制作し、スタンプポイントの周りを飾ったり、景色の良いところにフラッグを並べて立て、フラッグアート風にした。アーティストとの交流も盛んで、中国からのアーティスト指導による餃子パーティーや歓迎会、送別会なども開催した。スタンプラリーには、スタンプマップだけでなく、地域紹介のガイドブックも作成した。このガイドブックは、地域の中で時間を掛けて育ててきた生け垣や巨木、道路と宅地をやわらかく繋ぐ何気ない景色なども盛り込んで、田舎の風景を魅力的に構成している要素についても解説した。

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

実行委員会には、毎回たくさんの方が参加してくれた。準備のワークショップにも100人を超える人たちが、様々な作り物製作に参加してくれて、改めて農家の人々が身につけている生活技術の豊かさにも感服した。参加者はこの狭い地域の中での行き来もほとんど無かったのだが、これを機に、互いの地域のおもしろさに気づき交流も生まれてきた。

また、九州大学の学生さんや、北九州、久留米などからの参加者がこの地域をおもしろがってくれたことで、地域の人々も自分たちの地域を見直し少し自信も持った。

今回制作した、この地域を紹介するガイドマップがきっかけで、自分の家の生け垣や、巨木を誇りに思ってくれる人も増えた。2日目が雨だったにも関わらず、スタンプラリーに700名以上の方が参加してくれたことも、地域の人々にとっては、思いがけない事で、実行委員会に参加した地域の人々で達成感を共有できた。

オープニング風景



竹伐り作業



縄鉢作り



スタンプラリー



寺島公民館の蛙王



### ・平成21年度

21年度は宮崎県との協働で、「まちさるき」イベントと、昨年の活動で気づいた、冬場に使われていない田圃への菜の花の種蒔きと苗の植栽を実施。「まちさるき」は、昨年の「東海さるく」から繪小町東海さるくに拡大。地域での取り組みもより多くの参加者を巻き込んだ物となった。

菜の花植え



シーチェ作品とお茶会



## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

20年度の事業実施の中で、この地域に冬場は全く使われていない120haを超える田圃があることが分かった。この田圃に菜の花を植えるプロジェクトを実施した21年度、この地域にある9つの生産組合の組合長さんに菜の花を植える田圃のとりまとめのお願いに行き、共通して知ったことが2つ。1つは全員が退職後の厚生年金をつぎ込んで趣味的に農業をしていること。もう1つは、全員に跡継ぎがないこと。恋島地区には小学生が4名しかいないこともショックだった。今、この地域に何らかの手立てをしないと10年後には荒れた120haの原野が広がってしまう。この地域で若者が何らかの産業を興したり、農業に魅力を感じるような仕掛けをみんなで作っていく必要があると思っている。

### ・展望

本年2月末に、新エネルギーやバイオエネルギーについての勉強会を兼ねたシンポジウムを開催して、みんなでこの地域に新エネルギー基地をつくる活動のキックオフにしたいと思っている。現在、お米という食料だけを生産している田圃の裏作で、エネルギー素材も生産できるようになれば、新たな産業を興すことが出来る。この地域には森林組合や野菜くずがたくさん出る青果市場、牛舎、豚舎、鉄鋼団地の技術などがある。これらを動員して、何か新たな仕組みが作れないか探るつもりである。

また、せっかく掘り起こしてきた地域の履歴も大切にしながら、新たな地域の魅力も付け加えて行きたいと思っている。この地のたくさんの石垣や石造品がどこから来た石で作られているか、石の専門家に調査も依頼している。ひよとすると千石船の帰り荷として、瀬戸内海地域からもたらされた可能性も高い。

アーティスト・イン・レジデンスで、アーティストが一番評判が良いのは、この地域の人柄。「日本人がこんなに穏やかで、優しい民族とは思わなかった。村の中も掃き清められてどこまでも美しい。」これが滞在したアーティストが必ず言う言葉である。彼らは村の中に行き、お寿司や赤飯をもらって帰ったりする。この宝を大切にしながら、空き家を活用した旅行者の滞在場所作りや、カヌースクールなどの体験メニューも充実させて行きたいと思っている。

ヨーロッパでは、田舎の暮らしの場が観光地である。そんな風に、人柄の素晴らしい日本の田舎の暮らしの場に滞在して、のんびりすることが観光となるような仕組みを作り、広く海外にも発信できたらとも思っている。